



徳嶺勝信

ハノイ人口・住宅センサス中央指導委員会は、2019年の人口推移を発表した。ベトナムの総人口は19年4月時点で約9620万人となり、09年より約1千万人増えた。年平均約1%増加しており、東南アジア諸国で3位、世界15位だ。世帯数は2680万軒と09年比440万軒増だった。現地メディア「Vnexpress」によると、15歳以上に占める有配偶率は69%、離別率は2%、死別者は6%で、平均年齢30.9歳となった。ベトナムは平均年齢が若い国だが、実は、総人口に占める15歳〜64歳が増え続け、経済成長を促進させる「人口ボーナス期」は16年がピークだったとされる。この時期に外資系企業の誘致などで雇用を増やせたため、失業率を上げずに経済の急成長へとつなげることができている。

経済の成長に伴いベトナム人の志向も変わりつつある。近年は明らかに量より質を求めるベトナム人が増加傾向にあり、前回のアジア便りでも取り上げたが、日本産

経済成長で量から質へ

ベトナム

の高級果実や高級食材が人気で品薄状態になっている。欧州産高級家具の需要拡大が続いており、ハノイでは2千平方メートルのシヨールームが新設されるなど、今後も需要の高まりが続くとみられている。

富裕層も増加している。住居以外に資産3千万USD(約33億5千万円)超を保有する「超富裕層」人口は、18年は前年比7人増の142人となった。さらに19〜23年の5年間で31%増える見通しで、この増加率は世界最高水準だ。

ベトナムで資産300万〜3千万USD(約3億3500万〜33億5千万円)を保有する富裕層の数は、18年時点で前年比5%増の1万2327人。23年までには、1万5776人に増える見通しという。メディアによると、経済成長と好調な貿易のおかげで、特に民間企業から多くの富裕層・超富裕層が生まれているという。

今後もベトナムは、東南アジア諸国連合(ASEAN)、環太平洋連携協定(TPP)、東アジア地域包括的経済連携(RCEP)などの経済連携を深め、高い成長を遂げていく事が予想される国であるということだ。今後、沖縄―ホーチミン間の直行便の運航も予想される。量より質を踏まえたビジネス戦略で動く時期である。

(VINACOMPASS代表)

次回は平安常幸・県ソウル事務所長です。